



NEW ALTO 登場

これが、軽セダンの
新たな挑戦！

1979年に衝撃的な47万円という価格でデビューして以来、35年にわたって軽自動車のビッグネームとして存在感を示してきたスズキ・アルト。今回フルモデルチェンジを受けた8代目も、見どころ満載のクルマに仕上がっている。ハイブリッド車と並ぶガソリン車でトップレベルの低燃費を実現し、新プラットフォームの採用により剛性を高め、しっかりした走行性能も確保。シンプルでクリーンなスタイルはひと目で新型アルトと分かる個性を与えられ、モダンなインテリアは乗る人を楽しみ気分にさせてくれる。寒冷地や山あいの地域で欠かせない4WD車もラインアップし、さまざまなニーズに正面から応えた新型アルト。世界に誇る日本の軽自動車の歴史に、また新たな1ページが追加された。

発行所
日刊自動車新聞社
東京都港区芝大門1丁目10番11号
芝大門センタービル3階
電話 東京 (03) 5777-2351 代表

スズキ

新型
アルト

特集号



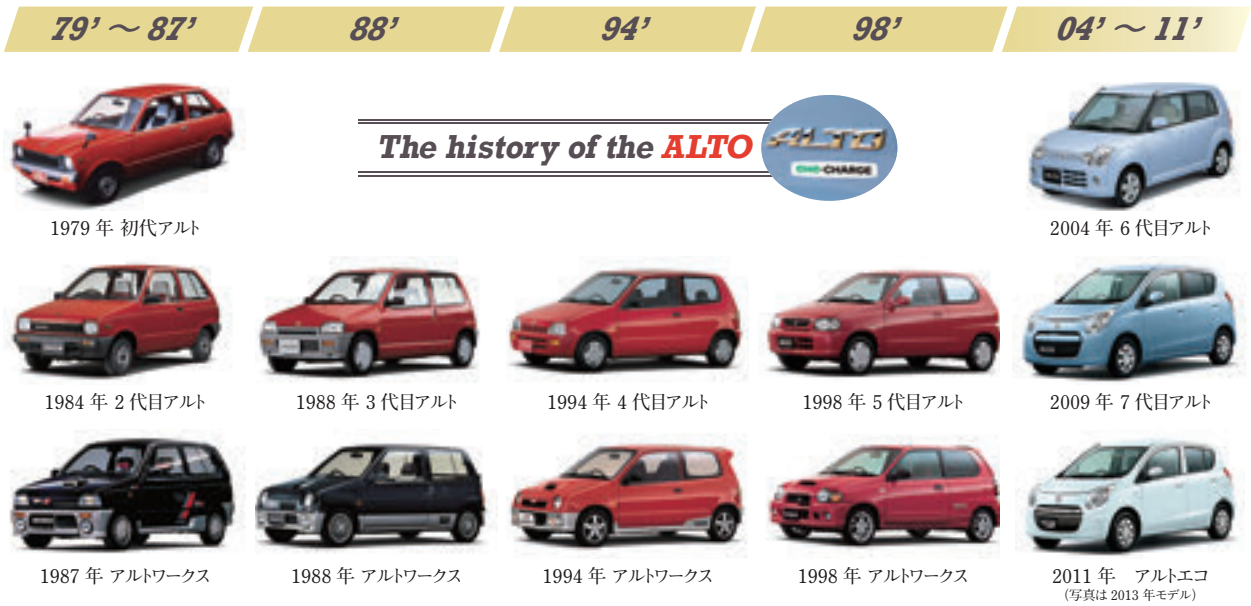
低燃費

ガソリン車トップ

37.0 km/ℓ

※5ドアセダン L・S・XのFF車

8代目の新型アルトが、軽自動車の 新たな歴史を作り上げる



47万円と当時としても破格のプライスタグを付けて1979年にデビューしたアルトは、日本の軽自動車を代表するモデルとして進化を続け、多くの人に愛されてきた。2代目では高性能バージョンのアルトワークスをラインアップし、3代目では意表を突いた助手席スライドドア車を設定。4代目ではオールアルミエンジンを搭載するなど、歴代アルトの話題を取り上げていくと枚挙にいとまがないが、常に新たな発想と先進技術を武器に挑戦を続けてきた。競争が激化する軽自動車マーケットでも存在感を示し続け、その国内累計販売台数は483万914台（2014年10月末現在）に達している。8代目となる新型アルトがまた新たな歴史を作り上げることは間違いないだろう。

経済性と実用性のアルトバン

ビジネスバンとして人気が高いアルトバンも、新プラットフォームや新エンジンにより一段と進化し、商用車としての利用価値をさらに高めている。バックドア下部の開口部を広げたことで荷物の積みおろしが楽になり、室内長が伸びたことで荷室スペースも拡大。より多くの荷物を効率よく積むことが可能となった。エンジンの改良に加え、軽量化やオートギアシフト(AGS)の採用によって燃費も向上し、ランニングコストの低減にも貢献。さらに軽商用車では初めて先進安全機能(レーダーブレーキサポートなど)の装着車を設定し、高い安全性も確保。使い勝手のよさ、低燃費、高い安全性能を兼ね備え、ビジネスシーンでの活躍が期待できるバンに仕上がっている。



商用車 No.1 の低燃費で、出し入れしやすい広い荷室

スズキ アルト 主要諸元表(セダン)											
ボディ		5ドア セダン									
機種名		F				L		S		X	
駆動方式		FF(前2輪駆動)		フルタイム4WD		FF(前2輪駆動)	フルタイム4WD	FF(前2輪駆動)	フルタイム4WD	FF(前2輪駆動)	フルタイム4WD
トランスミッション		5MT	5AGS	5MT	5AGS	CVT					
全長×全幅×全高(mm)		3,395×1,475×1,475								3,395×1,475×1,500※	
室内寸法(mm) バンタイプの場合 荷室寸法(mm)	長さ	1,985						2,040			
	幅	1,255									
	高さ	1,215									
ホイールベース(mm)		2,460									
トレッド(mm)	前	1,305						1,295			
	後	1,310	1,300		1,310	1,300	1,310	1,300	1,300	1,290	
最低地上高(mm)		155									
車両重量(kg)		610	620	660	670	650	700	650	700	650	700
乗車定員(名)		4									
JC08モード燃費(km/ℓ)		27.2	29.6	25.2	27.4	37.0	33.2	37.0	33.2	37.0	33.2
エンジン型式		R06A型									
種類		水冷4サイクル直列3気筒									
総排気量(cc)		658									
使用燃料・燃料タンク容量(ℓ)		無鉛レギュラーガソリン・27									
最高出力<ネット>(kW(PS)/rpm)		36/49/6,500		38/52/6,500		36/49/6,500		38/52/6,500			
最大トルク<ネット>(N・m(kg-m)/rpm)		58/5.9/4,000		63/6.4/4,000		58/5.9/4,000		63/6.4/4,000			
最小回転半径(m)		4.2								4.6	
ステアリング		ラック&ピニオン式									
ブレーキ形式 前/後		ディスク/リーディング・トレーリング									
サスペンション		マクファーソンストラット式コイルスプリング									
		前								後	
		トーションビーム式コイルスプリング(2WD車)、I.T.L.(アイソレーテッド・トレーリング・リンク)式コイルスプリング(4WD車)									
タイヤ		145/80R13 75S								165/55R15 75V	

● 1内は4名乗車時です。キループアンテナを折り畳んだ際の数値です。●燃料消費率は定められた試験条件での値です。お客様の使用環境(気象、渋滞等)や運転方法(急発進、エアコン使用等)に応じて燃料消費率は異なります。●メーカーオプションを組み合わせた後装の場合、車両重量、燃料消費率は異なります。詳しくは近づくの販売会社にお問い合わせください。



エクステリア

ボディ本体の造形にこだわったエクステリアは、シンプルながら存在感のあるデザインで仕上げられている。メガネをモチーフにしたフロントスタイルは「目力」のあるヘッドランプで個性を主張し、サイドに回ると大胆なサイドウィンドウのラインが躍動感を生み出している。フラットなボディパネルと小ぶりのリアウィンドウを組み合わせ、リアコンビネーションランプをバンパーに収めたリアスタイルは、走り去った後姿を印象づける。バックドアだけがグレーの2トーンバックドアを選ぶのも楽しい。キャビン/ボディ/ホイールベースの最適なバランスを考えたプロポーションのよさは、小さいながらも存在感のある新型アルトの大きな魅力だ。



シンプルでクリーンなデザイン



全高を低くし、フロントからリアまで流れるルーフライン



ランプ類はリアバンパーに収める

インテリア

大胆な2トーンカラーを基調とするインテリアは、シンプルながらモダンな印象を受ける。伸びやかなインパネは広さ感を演出し、ヘッドランプと共通のモチーフでデザインされた大径メーターは視認性に優れ、安全運転を支援してくれる。高めの位置に置かれたシフトレバーの操作感もよく、手が届く位置にまとめられたオーディオ類やエアコンスイッチ類も違和感なく操作できる。落ち着いた色調のシートは室内の質感を高めており、軽量化と剛性を両立させたシートフレーム構造により、座り心地を向上させている。収納スペースも豊富で、500mlの紙パック飲料も置けるフロントコンソールドリンクホルダーなど、使う側の立場に立った配慮がうれしい。



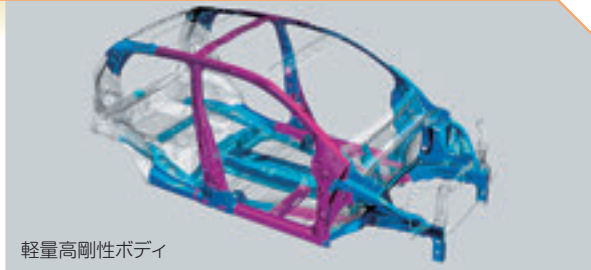
横基調で広さ感を生むインストルメントパネル



室内長 2,040mm でクラストップを実現

新プラットフォームの採用

新型アルトは軽量化と高剛性を両立させた新プラットフォームを採用。クルマを支えるアンダーボディは主要構造の見直しなどで曲げ剛性とねじり剛性を30%高める一方、滑らかな形状とすることで補強部品の使用を減らすなど、軽量化との両立を実現している。ボディは超高張力鋼板の使用範囲を広げて剛性を高め、TECT構造による衝突安全性の向上にも貢献。さらにサスペンションやエンジン回りを含むプラットフォーム全体のレベルを高めることで走行性能、静粛性、衝突安全性などあらゆる面で性能アップが図られ、クルマ全体のパフォーマンスを大きく引き上げている。



軽量高剛性ボディ



フロントサスペンション

リアサスペンション

魅力的な価格設定



2トーンバックドアで個性を強調

快適で使いやすいパッケージング

スズキの軽自動車では最長のロングホイールベースにより、室内の広さや使い勝手は格段に向上している。エンジンルームを最小化したことで室内長はクラストップの2,040mmとなり、後席スペースの余裕度もアップ。大人4人がゆったりと座れる空間を確保している。チルトステアリングとシートリフターの装備により誰もが最適なドライビングポジションを得ることができ、さらにシートのヒップポイントを20mm高めたことで乗り降りがしやすくなった点も見逃せない。荷室に設けられた15.5ℓのラゲッジアンダーボックスも、整理整頓に貢献してくれるはずだ。



後席をたたためば、大きな空間に

ガソリン車ナンバーワンの低燃費

新プラットフォームの採用による軽量化、R06A型エンジンの大幅改良、CVTの改良などによりハイブリッド車と並びガソリン車で最も低燃費の37.0km/ℓ(JC08モード値)を実現。エンジンは圧縮比を従来の11.2から11.5に高め、吸気ポートとピストン上部の形状変更などにより燃焼効率をアップ。ノッキングを防ぐEGR(排気再循環)システムなどにより性能を損なうことなく燃料消費率を向上させている。さらに副変速機付きCVTは軽量化に加えて変速比を最適化し、スムーズな走行感覚を確保しながら伝達効率を向上。総合力によって低燃費ナンバーワンを達成している。



圧縮比向上と EGR システムを採用

うれしい・楽しい・新しい ユーザー目線の実用車

4WD車も全グレードに設定

Engineer's Voice

アルトは初代誕生以来、機能優先のシンプルなスタイル、お求めやすい価格、実用車という明確な目的を持ったベーシックな軽自動車という思想を基に開発してきましたが、8代目となる新型の開発で一番大事にしたのは“お客様目線”です。そこで、“うれしい”低燃費、“楽しい”走りの実現を目指し、60kgもの軽量化に挑戦しました。軽くなれば燃費はよくなり、キビキビとした軽快な走りが楽しめます。価格もよりお求めやすくなります。そして、若い方にも乗っていただきたく“新しい”デザインにも挑戦しました。

スズキ 四輪技術本部
第一カーライン長
鈴木 直樹さん